

てくつくうえだ

「信州上田学」特別号
長野大学企業情報学部 鈴木誠ゼミ

よかつた、うえだで。

【巻頭企画】
上田駅前
グルメマップ



サントミューゼ

上田映劇

上田信用金庫

柳町屋 [Co・LABO SHOP]

古着屋DADA

てくてくうえだ

03 上田駅前グルメマップ

長大生が選ぶ店はコレ！厳選10店



07 サントミューゼ

芸術とふれあい、心育てる

13 上田映劇

歴史を紡いできた居場所に込める想い

19 上田信用金庫

親近感を大切に！上田の未来を創る



25 柳町屋[Co・LABO SHOP]

和菓子や店主 一家に一台DIY人間



31 古着屋DADA

自分のやりたいことを、楽しむ。



37 ゼミ紹介

39 大学紹介

40 編集後記



読者アンケート

皆様のご意見・ご感想お待ちしております。

はじめに

この度は『てくてくうえだ』をお手に取っていただきありがとうございます。
本誌は「上田で働く人を通して上田の魅力を探求する」というコンセプトのもと、
様々な働き方をしている人にインタビューを行い記事を作成しています。
このコンセプトを設定した理由は、上田にある企業の経営者やそこで働く労働者への
インタビューを通して上田の魅力を探求し、
まず自分たちが上田のことをもっとよく知りたいと考えたからです。
それだけではなく、インタビューによって得た知見を発信し、
上田の魅力を皆さんにも知ってもらいたいと考えました。
本誌を通じて、これから働き始める人だけではなく既に働いている人に対しても、
今一度自身のキャリアデザインや職業観、ひいては人生について考える
きっかけになればと思います。
なお、本誌は「信州上田学」特別号として刊行します。



10

中央3丁目

9

8

7



○○○ 横町

駅前グルメマップ

今号の『てくてくうえだ』では、近年新しく上田駅周辺に開店したお店を紹介します。
ぜひお気に入りの店舗を見つけて、足を運んでみてください。

このページには店舗の所在地を、5～6ページには店舗の詳細情報を掲載しています。



1

TQ Tacos & Tequila



本場メキシコのタコスと飲みやすいテキーラを提供しているお店。

「テキーラ=ショットというイメージを払拭したい」という店主の想いがあり、甘くすっきりとしたテキーラを多く揃えている。はじめは「リオカリエンテ シルバー」、「リオカリエンテ レポサト」がおすすめ。タコスの生地はとうもろこしを100%使用しているのでヘルシー。

- ①上田市中央1丁目9-4
- ②0268-71-0065
- ③17:00～翌1:00
- ④水曜日
- ⑤リオカリエンテ シルバー、
リオカリエンテ レポサト
- ⑥どちらも￥550(税抜)



2

VACILANDO COFFEE



酸味のあるシングルオリジンコーヒーが自慢のお店。店主自ら上質な豆を仕入れている。

まず飲んでほしいコーヒーは「コロンビア・エル・パライソ・ゲイシャ・レティ 中煎り」。飲んだ瞬間に酸味が来て、次にフルーティーな風味を感じ、最後にコーヒーの苦味を感じる。豆の質の良さが奥深い味に現れている。

店主「求人募集中です!」

- ①上田市中央2丁目6-5
- ②050-5375-9149
- ③9:00～18:00
- ④火曜日・金曜日
- ⑤コロンビア・エル・パライソ・
ゲイシャ・レティ 中煎り
- ⑥￥800(税込)



3

韓味屋(はんみや)



長野県のおいしい食材を地産地消。本場韓国のお味を気軽に楽しめる韓国料理店。団体で来ても楽しいこと間違いなし。独自のこだわりが詰まった韓国料理の品々はどれも自慢の逸品。

人気のメニューは「UFOチキンチーズボールフォンデュ」。揚げたてのチキンとチーズボールをアツアツのチーズにディップして食べるとおいしさ100倍!

- ①上田市中央2丁目5-5
- ②070-3320-9616
- ③11:30～14:30
17:30～22:00
- ④木曜日
- ⑤UFOチキンチーズボール
フォンデュ
- ⑥￥3,608(税込)



4

DARUMAN street foods



おしゃれな外観で、上田の街に溶け込む。気さくな店長が作る料理と豊富なお酒で若者たちで賑わうダイニングバー。

おすすめ料理は「自家製ハンバーグ」。様々な種類のお酒とマッチするジューシーな料理となっており、その他にも、「ローストビーフ」や「ソーセージ盛り合わせ」などがある。

また、他の店舗ではお目にかかるないお酒や、定期的に替わるビールを味わえる。裏メニューもあるかも…。

- ①上田市中央2-14
甲州屋ビル102
- ②0268-75-7490
- ③18:00～24:00
- ④月曜日
- ⑤自家製ハンバーグ
- ⑥￥1,000(税込)



5

upmoat



2021年11月6日にオープンしたカフェ・ダイニングバーススタイルのお店。オリジナルクレープやラム酒を楽しむことができる。奥のスペースでは時々イベントが開催されている。

おすすめは「クリームチーズハニーレモン」。小麦ふすま粉、全粒粉入り、ラム酒香るオリジナル生地を使用。生クリームは純生クリーム100%、無添加で賞味期限10分のふわふわ生クリーム。甘すぎずすっきりとした味わいで、お食事にもおやつの時間にもぴったり!

- ①上田市中央2丁目9-19
- ②080-7317-0904
- ③11:30～16:00
18:00～22:00
(週末は24:00まで)
- ④火曜日
- ⑤クリームチーズハニー
レモン
- ⑥￥900(税込)

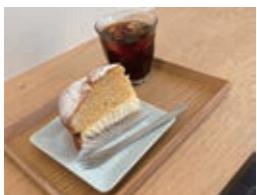


番号の表記について

①住所 ②電話番号 ③営業時間 ④定休日 ⑤おすすめのメニュー(商品名) ⑥⑦の値段(税抜もしくは税込)
右下のQRコードは、インスタグラムのQRコードです。

6

EASY BAKE



こだわりのある北海道産とフランス産の小麦粉を使用している焼き菓子専門店。

おすすめは「ピクトリアケーキ」。しっとりとしたバターケーキの間に濃厚な生クリーム、酸味の効いたイチゴジャムが入っておりそのバランスが絶妙。

日常の中に取り入れやすい焼き菓子を扱っているので本日のティータイムにいかがでしょうか。

- ①上田市中央2-3-7KUDOビル1F
- ②0268-75-8373
- ③12:00~18:00
- ④火曜日・水曜日
- ⑤ピクトリアケーキ
- ⑥¥480(税込)



7

Rams Kitchen ラムズキッチン



2022年4月にオープンした、タイ・韓国・中華料理など多国籍なメニューが楽しめるお店。学生をはじめ、小さなお子様からご年配の方々まで幅広いお客様に愛されている。

おすすめはオーナー「らむさん」自慢の「ガパオライス」。素材から全てらむさんのこだわりが詰まった一品で、辛くない味付けと、半熟の目玉焼きがポイント。その他にもらむさんが韓国在住時の経験を活かしたこだわりの味を楽しめる。

- ①上田市中央三丁目9-6弁天センター1階
- ②0268-75-7512
- ③ランチ 11:30~14:30
ディナー・テイクアウトあり
- ④木曜日
- ⑤ガパオライス
- ⑥¥850(税込)



8

エクレール de 石森良三商店



江戸時代の建物を利用する、古風な商店の一角にあるエクレール屋。明治生まれの祖父が作ったレシピで歴史を感じる。

おすすめは「エクレアキューバラム」。ラムで香り付けしたチョコレートカスタードに、国産の「和三盆糖」使用のクリームを絞った、こだわりの一品。選りすぐりの砂糖で、他にない独自のおいしさを実現している。

- ①上田市中央3丁目8-12
- ②080-3607-8830
- ③11:00~17:00
- ④日曜日~木曜日
- ⑤エクレールのエクレア
- ⑥¥450(税込)



9

Old Pub House CHILL



築104年の古民家をDIYした、人と人を繋ぐpublic house。貸し切りでもご利用いただける。音楽とお酒、時間を忘れて自由空間を楽しめる。合言葉は「#今日chillろう」。引き戸を引けば愉快な夜が待っています！

おすすめのフードは「半熟!!鉄板アツふわオムライス」。心を込めて作られるオムライスは絶品。

- ①上田市中央3丁目7-12
- ②電話番号なし
- ③18:00~24:00
- ④月曜日~木曜日
(祝日は営業)
- ⑤半熟!!鉄板アツふわ
オムライス
- ⑥¥800(税込)



10

マーライラのお惣菜屋さん



2022年1月にオープンした、お惣菜屋さん「マーライラ」。おしゃれな店内で食事することもでき、奥にあるBARでお酒をいただくこともできる。

おすすめの商品は「ロコモコ丼」。ほかほかのご飯にのった肉厚のハンバーグが非常においしい。小腹がすいたときはコロッケもおすすめ。サクサクな衣とふわふわなジャガイモの相性は抜群。ぜひご賞味あれ。

- ①上田市中央4丁目6-16
- ②0268-55-3903
- ③11:00~19:30
- ④日曜日
- ⑤ロコモコ丼
- ⑥¥820(税込)



※この情報は、2022年12月12日時点の情報です。メニュー・営業時間・定休日等は変更の場合があります。
※価格は、店舗によって税抜・税込か異なります。()内に税込もしくは税抜かの記載をしております。ご注意下さい。



藝術とふれあい、心育てる



サントミューゼって？



交流文化芸術センター

大ホール(1530席)

(サントミューゼ提供)

平成二十六年（二〇一四年）開館。
上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館・交流芝生広場が併設された複合文化型施設として、コンサートや演劇公演、展覧会などの鑑賞型事業の実施や、誰でも利用できるスタジオやギャラリー、会議室も整備されており、上田市の芸術文化の拠点になっています。

サントミューゼ内は木の暖かみを感じる落ち着いた雰囲気となっており、ゆったりとした時間が流れています。深呼吸したくなるような建物で、素敵な芸術文化に親しめます。

ここでは、企画の担当をされる方など上田市の職員である様々な方が働いています。



上田市立美術館 展示室
(サントミューゼ提供)

上田市立美術館について

サントミューゼ内にある上田市立美術館は、山本鼎

などの上田市ゆかりの作家の作品展や、現代アーティストとして国内外問わず多くの人を魅了する芸術家の越ちひろさんをはじめ若手アーティストの展覧会を積極的に行っているほか、企画展示も多く開催されている上田市内唯一の美術館となっています。一階は市民アトリエやギャラリー、二階には企画展示室と常設展示室があり、きれいな施設でゆっくり鑑賞できます。

作家の方とともに制作活動に励むことのできる参加型プログラムをはじめとする、自分の手で、目で楽しめる企画が多く開催されているほか、後述する子どもアトリエ、作家活動のレベルアップを目指したい方向けの各種講座も開かれています。

誰もが美術館に足を運びたくなるような工夫を凝らしている施設となっていきますので、美術館と聞いて一歩引いてしまう方も一度足を運んでみては？



ピアニスト酒井有彩さんの

ピアノ・リサイタルの様子

(写真：齋梧伸一郎)

芸術家ふれあい事業

サントミューゼ独自の活動として、「芸術家ふれあい事業」というものがあります。これは、開館年度から行われている事業です。上田市内すべての小学校や各地域の公民館へ出向いて、芸術をより身近に感じてもらおうと、芸術家の協力のもと行われています。

特に幼い子供にとっては、本物の芸術に触れる機会はとても貴重で、これも「育成」という言葉を表している事業といえます。驚きなのは年に数回開催される「地域ふれあいコンサート」。入場料はたったの五〇〇円。本格的な演奏を楽しむことができ、芸術文化の発展に大きく貢献しています。

サントミュージで働かれていた飯嶋さん、岡田さんに入インタビューを行いました。

職員の方々は、学生である私たちにも丁寧に対応してくださり、来館されるすべての方の思いに寄り添いながら日々の業務にあたっていました。「育成」という言葉を大切にしており、上田市民とともにこの地を盛り上げていこうという思いを強く持つていていました。



左:岡田さん 右:飯嶋さん

サントミュージで働いてみて感じたこと

飯嶋

音楽や演劇などが行われている場所で働いていると聞くと華やかなで楽しそうな職場と感じられるかもしれません、実は地道な作業が多い職場です。公演を成功させるために日々の施設点検や主催者様との打ち合わせなど細かな気遣いが重要だと感じました。

岡田

私はサントミュージが開館する前に準備室という部署に配属されました。美術館で働いたことがないのに想像で細かい部分を決めなければならぬので大変でした。さらに、開館の日は決まっていたので、時間的なプレッシャーもありました。今ではとても貴重な経験ができたと思っています。

働く上でやりがいについて教えてください

岡田

岡田智恵さん（上田市職員兼学芸員）
大学生時代に日本美術の歴史に興味を持ち専攻。人々をサポートする職に就きたいと考え、上田市職員に。後に学芸員の資格を活かしてサポートミュージを支える存在へ。
(平成二十五年四月にサントミュージに配属)

飯嶋奈津子さん（上田市職員）
学生時代を上田市で過ごし、その後、一度上田市を離れて民間企業に就職。しかし、自身の働き方を見つめ直し、限られた時間の中できつちりとした働き方をしたいと考える。そして縁があつて上田市役所の職員として働くことに。（令和三年四月にサントミュージに配属）

展覧会を開催するまでの流れを教えてください

岡田

まず最初にテーマを決めます。次に学芸員の会議に自分の企画書を出します。そこでは時代性、必然性、話題性、そして金銭面などの実現性についても話し合います。それが通るとスケジュールを決め、会場づくりの打ち合わせなどをやり、最も大事な作品の選定をします。上田市立美術館でやる意味などを考えていく中で何をどのよう順番で見せるのかが、学芸員として重要なところです。作家さんがいる場合は、その意向ともなり、また作り直してみたりなど何度も繰り返しながら、展示のレイアウトを決めていくのです。またこの作品は何年ものものですという作品データや解説文を書いたりし、その後SNS、テレビ、ポスター等の宣伝計画を決めていきます。あとは人の誘導などのオペレーションについても、どう対応するのか打ち合わせや情報共有をしていきます。そして会場づくりですが、だいたい四～五日前に作品が入ってきます。美術館にあるなら収蔵庫から出し、借り物の場合は、開封し状態が輸送によって変わらないか確認します。高さや間隔を揃えながら作品を展示し、キヤブシヨン（説明文）やサインなどを取り付けます。最後に作品リストを作つて展覧会が始まります。

岡田

最も印象に残っているイベントは何ですか？



学生の印象に残ったイベント
MINIATURE LIFE(ミニチュアライフ)展2
田中達也 見立ての世界

現代アーティストの越ちひろさんとピアニストの中川賢一さんによるコラボイベントです。中川さんのピアノコンサートの曲を隣のスタジオでかけながら越さんがライブペインティングをするところを生中継し、その様子をプロジェクトで中川さんが演奏している後ろに映しました。最後に描きたての絵を出口に設置して、お客様に見てもらうという面白い企画です。サントミューゼが立ち上がった頃は、単独の美術館、単独のホールではできないことを積極的にやろうというスタッフの意気込みが特に強かつたように思います。サントミューゼだから実現できたイベントとしてとても印象的でしたね。

岡田

岡田さんのモットーは何ですか？



山本鼎 (サントミューゼ提供)
上田市を拠点に子供たちに自由に絵を描くことの尊さを教える自由画教育運動を提唱

大事にしている言葉は山本鼎の「自分が直接感じたものが尊い」というフレーズです。山本鼎は作家活動以外に児童自由画運動と農民美術運動の二つの運動をしていました。この言葉は農民でも子供でも、自身が持つていてる創造性を伸ばして行くべきだという意味が込められています。学芸員として大事なのは最終的には自分の目なんですよね。仕事柄、提供する側で物事を進める自分が、ユーモアとして考えることも大切にしないといけないし、色々な場面でも自分の感覚が大事です。山本鼎の言葉は非常に共感できるもので、ほかの学芸員も大事にしている言葉だと思います。自分にとっての激励の言葉であり、自分の感覚を信じて決めるときに背中を押してくれます。仕事をするうえでも、重要な意味を持つ言葉だと思うので職員全体で共有できたらいいなと思っています。



サントミューゼ内観(サントミューゼ提供)

飯嶋

普段から足を運んでくださるお客様だけではなく、小さな子からお年寄りまで幅広い年齢層の方に来てもらいたいです。今日皆さんと話してみてサントミューゼを知らない方がまだまだ、たくさんいると感じたのでちょっと敷居を下げられるような広報をしていきたないと考えています。誰が来ても楽しめるようにしていかなければいけないですね。

これからサントミューゼの課題を教えてください

子どもアトリエとは

子供たちが造形活動をするためのアトリエで、子供たちを育成したいという上田市職員と子どもアトリエサポートーという少数精銳のボランティアの協力の上で成り立っています。



子どもアトリエの様子(サントミューゼ提供)

上田市を代表する作家「山本鼎」が児童自由画運動という活動を上田市から全国に展開していく歴史があり、子供たちの造形活動を大事にしたといふ地域の方たちの想いがカタチとなつたことで生まれました。

参加者の声

- ・娘が二歳なのですが、家族の協力プレイですごく楽しめました。家だと空き箱などもゴミになってしまふけれど、こうやって使えばおもちゃよりも楽しいものが作れて、とてもいい機会でした。
- ・サントミューゼには子どもアトリエが目的で訪れることが多いです。子どもアトリエはとても楽しいですし、家ではなかなかできないことができる点がいいなと思います。



子どもアトリエに参加されたご家族

吉川さん

「子供たちのここから始まっていく色々なものに携わっていく」という一生のうちになかなかないチャンスのきっかけ作りを私たちできたら、そんな素晴らしいことはないと思います。

子どもアトリエに来てくれる子供たちから、「楽しい」「絵を描くのが好き」という声をたくさん聞きます。ある所で嫌いになつてしまふことが多いのが「美術」というものなので、そこで美術から離れずに、縁が結ばれるような場所をここで作れたら理想です。そのためできるだけ正解・不正解の判断はせず、失敗してもそれは失敗ではないということに気付いてほしいです。私たちは、安全面はもちろんそういう精神的なケアにも気を配っています。一番大切にしているのは、子供たちはもちろん、ご家族の皆さんにも楽しんでもらえることですね。

竹下さん

子供たちがのびのびしている所に携われる仕事つなかなかないと思うんです。公務員として勤務しているので、まさかこういった仕事ができるとは思っていませんでした。なので、子供たちの成長に関わるという所に一番やりがいを感じています。

イベント一つに関してもベース配分を考慮して、どこまで仕上げるか、どんな要素を入れるかなど、イベントの中身を考えるのが面白いです。

子どもアトリエ 担当職員のお話

岡田さんから学生へのアドバイスをお願いします

学生の時は色々な人がこれを見たいとかこれを知りたいという風に行くと親切に見せてくれるんですよ。学生は自由な時間と立場があるので直接役に立たなくても自分の興味のある所に行つてそれをもっと活かしてほしいと思いますね。自分が学生の時は自由の素晴らしさに気づいていなかつたんですが、それが後々活きていく気がします。人間性や自分の世界観・価値観を広げられたらしいのではないかと思います。そして、今の貴重な時代を噛み締めて大事に過ごしていただきたいです。

インタビューを終えて

サントミューゼでインタビューを行うまでは美術や音楽に対して興味が湧きませんでした。なぜなら、学校教育でテストのために学ばせられたものというイメージが定着してしまつていたためです。

私たちは美術や音楽も動画や画像で見ればいいやと思うようになってしまっていたのですが、絵画について熱心に語る岡田さんや飯嶋さんのお話を聞きして、画像や動画では伝わらない实物ならではの魅力があるということに気付かされました。

せっかく大学生という自由な時間がある身なので本物の音楽や美術を体感するなら今だと思いました。展覧会も是非、見に行きたいです。

今回は取材に貴重なお時間を割いてください本当にありがとうございました。



〒386-0025

長野県上田市天神三丁目15番15号

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日休館）

年末年始（12月29～1月3日）

上田市交流文化芸術センター

TEL：0268-27-2000

開館時間：9：00～22：00

上田市立美術館

TEL：0268-27-2300

開館時間：9：00～17：00



サントミューゼ
SANTOMUSEUM UEDA



Twitter



上田映劇

～歴史を紡いできた居場所に込める想い～



支配人 長岡俊平さん

長野県上田市出身

2011年 長野県上田東高等学校卒業

2015年 東京工芸大学芸術学部映像学科卒業

2017年 日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修士課程修了

同年4月 上田市に戻り上田映劇に就職

現在、支配人として創立100年を超える伝統ある当劇場存続のために
尽力されている。

上田映劇の歴史

1917年 「上田劇場」として創業

2017年 創立100周年を迎える

2018年 現在の「特定非営利活動法人 上田映劇」になる



上田映劇の運営について

働き始めたきっかけを教えてください。



中学生ぐらいのころから映画は好きで、映画関係の仕事をしたいと考えていました。そのため、大学、大学院を通じて映画を作ることを学びました。大学院在学中に叔父から上田映劇が再始動するから地元に戻つてこないかと誘いを受け、卒業後は上田映劇で活動することになりました。

どのように上映する映画を決めていきますか？

一人のスタッフが中心になって決めています。大きな映画館では上映しないような中小規模の映画を中心に取り上げています。その中でも娯楽作品だけでなく、ドキュメンタリーなどの社会性の高い作品を選んでいます。子どもたちにも来てもらえるようにアニメ作品などの子ども向け作品も上映しています。また、意欲的にやっているのはクラシックなど昔の名作を上映して、若い世代には知つてもらいたい、逆にシニア世代には懐かしんでもらいたいと思っています。



上田映劇に人を呼ぶための案は考えていますか？

映画だけでなく、この建物自体の価値を全面に押し出していきたいと考えています。築百年以上の歴史的に価値のある文化施設ということを上田市民にも誇りに思ってもらい、例えば劇場の中をツアーリングなど、そういうイベントで魅力をもつと知つてもらえたならなと思っています。



うえだ子どもシネマクラブについて

始めたきっかけは何ですか？

社会の中で子ども達が過ごせる場所を作りたいという思いで始めました。世の中には、不登校や引きこもりの子ども達がいるなかで、学校だけだと受け皿がなくなるという状況が出てきています。そこで、学校と家との間にある中間支援教室の役割も果たせたらいいなと考え、二〇二〇年から始まった事業です。休眠預金等活用法という法律が施行され、その補助金でこのうえだ子どもシネマクラブという活動ができています。

休眠預金制度とは：

休眠預金等活用法というのは、銀行に預けた口座が十年以上使われないと、休眠預金という形で銀行に残った状態になります。その休眠預金が現在、約十兆円あり、これを社会活動に活用できる法律のことです。



子どもと触れ合う時に気をつけていることはありますか？



距離感に気をつけながらコミュニケーションをとるようになっています。なかなか家から出ることができない子ども達にとって、映画館という場所に来てくれるること自体がすでに合格なのです。それでも、もう一步踏みだしたいけれどほかの人とコミュニケーションをとることがまだ難しい子どもたちもたくさんいます。それぞれに個性がある子ども達と、どのような距離感で話すべきなのかを気をつけています。例えば、女の子だったら女性のほうが話しやすい場合もあります。子どもによっては、様々な悩みを抱えている子ども達もたくさんいると思います。子ども達だけでなく、親御さんとも良い距離感でコミュニケーションをとるようにしています。

長岡さん 上田市 の魅力

NPOとして活動すること
の強みを教えてください。

税制上の優遇があるというのもあります
が、一番は建物をどう保存して後世に残して
いくかが僕たちのやりたいことなので、そ
ういう面では寄付とともに募りやすいのでNPO
で活動しようと思いました。

最低限必要な従業員一人に加えて市民ボラ
ンティアに窓口を手伝ってもらつており、經
営的には厳しい部分があります。その一方
で、柔軟に縛られる事なく自分たちのやり
たいことがしやすい環境だと思います。やり
たいという言葉が反映されやすいところが強
みかもしれないですね。

この仕事をやつていてやりがい
はありますか？

僕自身、映画が好きなので映画館にいるだけ
でやりがいはあります。それだけではなく
、お客様が全国から来てくれて、偶然の
つながりができることもすごくいいなと感じ
ます。他の映画館はお客様同士の会話は少
ないのでですが、上田映劇はお客様同士の距
離が近く、映画を見終わつた後会話が生ま
れ、繋がりの輪ができることがすごくいいな
と感じます。

お客様同士の繋がりを生む
イベントなどは考えて
ますか？

左の写真のように上田映劇の施設内に「重
澤珈琲（しげさわこーひー）」というコーヒ
ー屋さんがあるのですが、そこで、月一回く
らいで映画を見終わった後にオープンドイア
ローグみたいな感じでみんなで話をするイベ
ントを開催しています。



上田映劇を運営していく、
上田市
の活性化を感じられたことは
ありますか？

人の流れは少しずつできていると思つてい
ます。ライブや映画など、全国に今ここでし
か行つていないことがあると全国から人がた
くさん集まってくれるので、地域の活性化に
繋がつていると思います。加えて「犀の角
(さいのつの)」という小劇場や、Books&
cafeNABO(ネイボ)というお店などがあるの
で、人の流れが活発になつてゐる実感があり
ます。



上田市の魅力は何ですか？

上田市の魅力は、中途半端に田舎で中途半端に都会というところが逆にいいと感じています。

長野県では、松本の松本城や長野の善光寺などのシンボリックな観光地に重きを置いています。もちろん観光に重きを置くというのはいいと思いますが、置きすぎると地元の人たちが暮らしづらいと思います。上田は上田城などの観光地と、地元の人たちの暮らしが共存し、良いバランスで続いているのが魅力だと思います。



上田市を発展させていくために
やりたいことはありますか？

私が上田市を発展させていく、というような大きなことができるとは考えていません。それよりも上田映劇を守っていくことで、街との繋がりを作りたいと思っています。

具体的に、コミュニティを少しずつ増やしていくことが、長期的に見て街の発展と面白さに繋がっていくと思っています。上田市他の芸術団体や文化活動をされている団体とコラボレーションをして、イベントを行っていきたいです。

これから社会に出る学生に、
アドバイスはありますか？

できるだけ色んな人と関わることが重要だと思います。学生はアルバイトや友達との交友など、色々な道を探つていける時間があります。そうしていろいろな人と関わることで、繋がりができると同時に考え方も広がってくると思います。

たくさん遊ぶのがいいと思います（笑）

まず、お金はすごく大事だと思っています。お金があると心に余裕ができ、自分のやっている仕事にも本当の意味でやりがいを感じられると思います。ただ実際には、映画が好きという思いだけでやっています。

ある映画の台詞で、「映画に奉仕することが自分の価値」というものがあって、それが自分の中にすごく残っています。だから、映画に身を寄せることが自分の存在意義だと感じています。

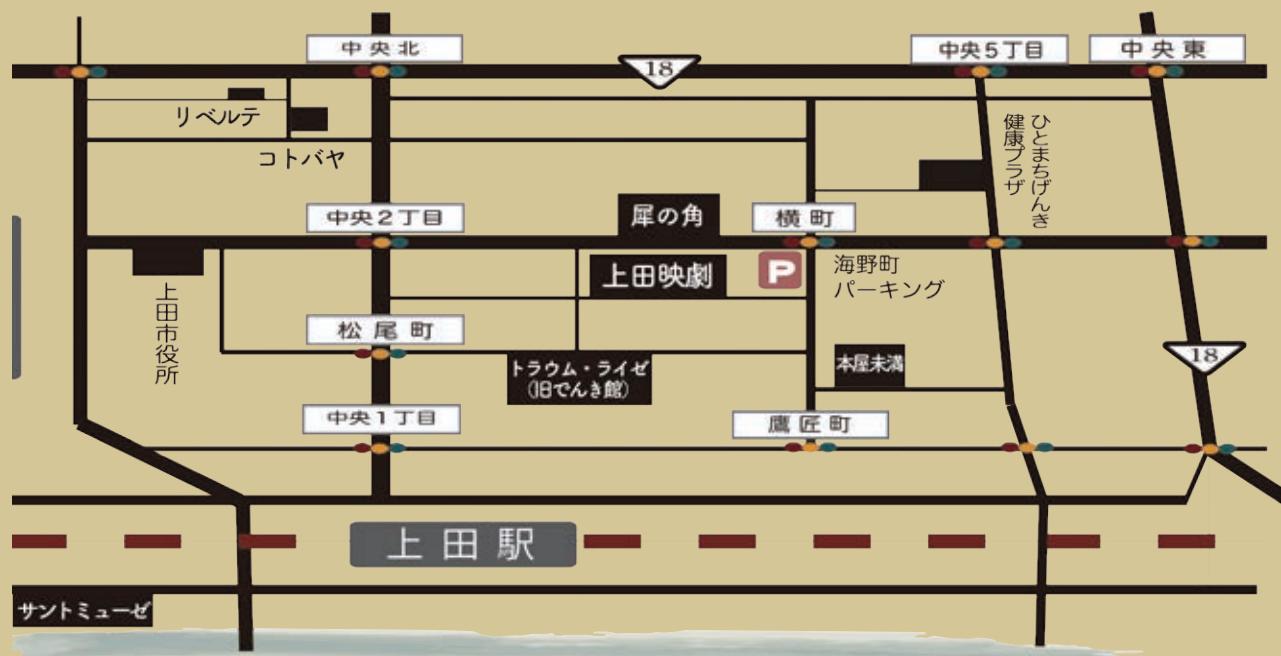
自分の働くうえでも居場所になればいいと思います。自分がここにいてもいいという思いになれるのが、働くうえで重要だと最近思います。それがなくなると働いていて本当に辛くなるとしますし、きっと一番は人間関係で職場を辞めてしまうことがあるので、やはり自分の居場所を作ることが重要だと思います。

インタビューを終えて

今回インタビューを引き受けさせていただき、ありがとうございました。上田映劇は百年以上続く映画館で、上田市の発展に大きく貢献していると感じました。うえだ子どもシネマクラブという活動では、学校に通うことが難しい子どもたちに居場所を与えてコミュニケーションをできる機会を作っています。地域の子どもたちに焦点を当てる活動は、他ではなかなか無いものです。実際に働かれている方にインタビューできることは貴重で、これから就職活動をしていく上で、参考にさせて頂きたいと思います。



access map



※車でお越しの方は、海野町パーキング等をご利用ください。

〒386-0012
長野県上田市中央2-12-30
TEL : 0268-22-0269
利用時間：午前9時～午後10時
定休日：原則月曜日
email : uedaeigeki@gmail.com

Ueda Eigeki





上田信用金庫



一日のスケジュール

8:10	出社
8:40	朝礼
9:00	渉外 *1
12:00	帰店 午前締め作業 昼休憩
13:00	渉外 帰店 稟議書作成(融資)
17:00	帰店 午後締め作業 提案書作成(お客様に合 った金融商品)
18:00	退社

* 1 : お客様まわり

上田信用金庫 渉外担当
土田 愛喜さん

- ・上田市出身
- ・東京の大学で経営学を勉強
- ・卒業後、上田市でUターン就職

私たちは、「しんきん」の愛称で知られる「上田信用金庫」を取材しました！

僕は、大学三年生就活真っ最中！たくさん会社から、自分が働く会社を選ぶのが難しい。そんな中、「地域の繁栄に貢献する」という経営理念をもつ、「上田信用金庫」に興味を持ちました。



グループリーダー 杉山敦優

やつぱり地元がいちばん好き

なぜ、上田市に戻って就職されたのですか？

東京も楽しいと思いました。しかし、地元が好きという思いがあり、主に東信地区を営業基盤とする上田信用金庫で働くことで地元に貢献できると思い、上田信用金庫に就職したいと思いました。

この街が秘める可能性

—働く上で、上田市の魅力を教えてください—

学生の時に見ていた上田市と社会人になってから見た上田市はかなり印象が違います。この仕事を通して、地域社会の中で頑張っている方や上田市が大好きで盛り上げようとして働いている方がたくさんいることを知りました。

最近では、空き店舗を使って生まれ育った上田市お店を出したいという方がたくさんいらっしゃいます。

この街はまだまだ活性化できる潜在能力があると感じています。

上田市がもっと発展していくように、私たちも地域社会の担い手として頑張っていきます。

地域のために働くってどういうことだろう？今回の取材を通して、答えを見つけられたらと思います！

「人とのふれあいを大切にし地域の繁栄に貢献する」という経営理念のもとで

—上田信用金庫の経営理念を実感した体験を教えてください—

「地域のお客様と密接である」というのがしんきん独自の強みだと思っています。

会う回数を多くしてお客様と信頼関係を築き、お客様からまた別のお客様を紹介していただき、取引につながることにすごく喜びを感じます。

その紹介していただいたお客様からもお礼のお言葉をいたいたときや、企業の課題解決のお手伝いをできた時に、経営理念である「人のふれあいを大切にし、地域の繁栄に貢献する」を実感しました。



お客様が待ち望むものを

— 様々なお取引をされてきたと思いま
すが、交渉の際に意識されることは
ありますか —

取引先のためになる情報提供をするよう
に心がけています。

例えば、補助金や助成金など、お客様が待
ち望んでいるものを紹介します。
具体的には「こういった補助金があるの
で、機械を導入するのはいかがですか」とい
うような提案をし、融資に結びつけられるよ
う意識しています。

何度も足を運び、信頼を

— 今までで1番印象に残ったお客
様はどのような方でしたか —

それまであまり当金庫から借入のなかつた
製造業の企業様ですが、自分が何度も涉外に
行き、「こういった補助金や助成金がありま
すよ」という提案をしました。
すると、「小回り効くし訪問頻度も多い、
しんきんさんから借りようかな」と言つて、
借りてくださったお客様が印象に残っていま
す。
その時、訪問頻度が多いほど良好な信頼関
係を築くことができると実感しました。



大切なのは
「約束を守る」 「スピード感」

— 働く上で大切にしていることを
教えてください —

大切にしていることは「約束を守ること」
で、これが誠実性に繋がります。

また、お客様から求められたことに対し、
素早く対応することを大切にしています。

例えばお客様から「この制度って何?」
「使えそうな補助金ある?」などと聞かれた
時にわからないことは山ほどあります。

聞かれたことに対して分からなかつたら、
「ちょっと調べさせてください、後日もう一
度訪問させていただいてもよろしいでしょ
うか」と伝え、その場を切り上げすぐ調べて、
すぐ答える事を心がけています。

また、借り入れの相談をされた時には、す
ぐに支店に持ち帰つて、上席を交えて協議を
して早めに方向性を定めます。

その後すぐにお客様に提案します。

さらに、お客様から通帳類や大切な書類な
どを預かることも多いので、預かつたもの
すぐにお返しするように心がけています。
やはり何でも「スピード感」を持って仕事
をすると、信頼を得られ、確実に評価に繋が
ると思います。

お客様からの
「ずっと担当者でいてほしい」



— 働いていて良かつたなどという出来事を教えてください —

プライベートな相談を受けた時や、お客様の悩みを融資に繋げられた時は嬉しいです。お客様のライフスタイルに合った提案をして、「土田さんみたいな人がずっと担当者でいてくれたらいいね」というお世辞にもお褒めの言葉をいただいた際に、私たち金融機関職員はお客様の人生に本当に寄り添う事が出来る仕事をしていると実感しました。

— 今までで一番大きな壁、困難を教えてください —

壁には常にぶつかっています。
私たち渉外は営業マンなので実績が求められます。

新人だろうがベテランだろうが、渉外係になつたときから競争社会なので周りの人と比べられますし、毎月全店舗の営業成績が発表されます。

どうしても成績が出せない時期が三年目頃からありました。

勧誘しても断られ、どんどん自信がなくなり「断られたらどうしよう」と勧誘もできなくなり、負のループでした。

その時に助けてくれたのが上司や同僚でした。仕事に対する考え方やコツも教えていただきました。

そのおかげで少しずつ自信を取り戻していました。
このことにより一人では乗り越えることが出来ないような高い壁も、周りの人からの助けで乗り越えるのだと痛感しました。

越えられない壁も仲間となら

今でも思い出す言葉
「お前逃げんのか」

— 大学時代の土田さんについて教えてください —

大学時代はラーメン屋でアルバイトをしていました。

かなりきつかったです。

いつもたくさんお客様が並んでいて、夜中の四時まで働いていました。

正直、何度もやめようと思いました。

そんな時に先輩から、「お前逃げんのか」と言われました。

自分は逃げているつもりはなかつたですし、たかがバイトと思つたこともありましたが、その一言がずっと心に引っかかり、逃げずになるとやり遂げることができました。社会人になってうまくいかなかつた際も、この言葉を思い出して続けられています。

その先輩からは就職の際も、「モノを売るな、価値を売れ」という言葉を教えていただき、金融商品というモノを売るのではなく、お客様に価値を売っているということを胸に頑張っています。

「上田しんきん経営塾21」で 地域に寄り添う

「上田しんきん経営塾21」とは

地域企業の経営者や後継者同士が語り合い
21世紀に通用する技術・技能・人材を有す
る会社を目指すため、「今何をすべきか」を
真剣に考えることを目的として、平成18年
6月に発足。

セミナーを中心に、異業種間の交流を通じ
てお取引先企業相互の繁栄を図る。

・会員企業111社、会員数122名(令和
4年3月31日時点)

―― 「上田しんきん経営塾21」で
は中小企業の発展にどのように関わっ
ていますか――

「上田しんきん経営塾21」では、様々な
専門家の方を招いて当金庫のお取引会社様経
営者様に経営改善や補助金等のセミナーを開
催しています。
会社と会社を繋ぐ架け橋として私たちが間
に入つて仕事を行っています。
この上田しんきん経営塾では企業様同士を
繋げることも仕事です。

その他にも私たち金融機関と致しましては
中小企業の発展のために外部機関とも密に連
携をしてソリューションという活動を積極的
に行なっています。

ソリューション活動の中に国が設置してい
る「よろず支援拠点」という専門機関があり
無料で診断してもらえます。

売上拡大、経営改善、財務状況の改善など
専門的な分野に長けている方がよろず支援
拠点に在籍しています。

その方を会社に派遣してもらって私も同行
訪問して経営者さんのお悩みを解決するとい
った活動を行っています。



*上田信用金庫常磐城支店

―― ご趣味は何でしようか――

趣味はライブとサッカー

私は音楽が好きなので、休日や有給を取つ
たりしてライブによく行きます。
また、幼い頃からサッカーが好きで社会人
サッカーにも週に二回ほど参加しています。
汗をかいたり好きなことでリフレッシュす
ることで仕事にメリハリができます。



*趣味を楽しむ土田さん

今回のインタビューを通して

土田さんのお話を聞いて、お客様との約束を守ること、質問の返答を早くすることが信頼を得るために必要であると学びました。地域に対する強い想いが地域を輝かせ、地域貢献に繋がっていると感じました。

信用金庫はお金を貸し出すだけでなく、地域や経営者との関わり方を大切にしているため、将来地域の繁栄に貢献したいと思う人や地域の人と関わった仕事がしたいと考えている人にはぜひ読んでほしいと思います。

お忙しい中、貴重なお話を聞くことができました。

ご協力ありがとうございました。



上田信用金庫本店営業店

住所 :〒386-0014

上田市材木町 1-17-12

電話番号: 0268-22-6262

営業日 :平日

営業時間: 9:00～15:00

<http://www.ueda-shinkin.jp/>

常磐城支店

住所 :〒386-0023

上田市中央西2-4-2

電話番号: 0268-24-3434

営業日 :平日

営業時間: 9:00～15:00



柳町屋 [Co・LABO SHOP] 池松勇樹さん



1980年 長崎県で生まれる。長野県上田市育ち。

1999年 上田千曲高等学校卒業後、地元建設会社に就職。

2001年 営業職に転身。様々な業種を経験後、2004年軽井沢のホテルに就職。

ホテル業務に従事していくうちに上田市の魅力に気づき、2006年に上田市へ戻る。

2007年 フリーペーパー『うえだNavi』創刊

2012年 特定非営利活動法人UFMを設立

2017年 柳町屋をオープン

2020年 「上田ブランド研究所」を開設



記事に掲載できなかった池松さんの多くの活動は
QRコードを読み取り、ご覧ください。

特定非営利活動法人UFM
池松さんのプロフィール

Q 柳町に拠点を置いた理由はなんですか？

私は過去に『うえだNavi』という地域情報紙を扱うフリー・ペーパーを約10年間発行する事業を行っていました。

当時、自分の同世代に向けた情報発信を実現するのに一番適していたフリー・ペーパーという形で、上田の魅力を発信・共有することを目的とした活動でした。雑誌を制作するための取材活動を通して、地元の多くの方との出会いが生まれました。そういう関係を築いていくなかで、様々な方からまちづくりや商品開発の相談も受けられるようになりました。

その一つに柳町のまちづくりがありました。柳町にあつた空き家の活用についての相談を受けたのがきっかけで、現在の柳町屋をイメージした提案をしたところ、運営までやってみないかという流れになり、現在に至っています。柳町では主に市外から訪れる観光客の方々に楽しんでもらえるようなまちづくりを目指しています。そのおもてなしの形を柳町屋のサービスや地域イベントの開催などによって表現しながら魅力の発信を行っています。

現在の私がこうして柳町に拠点を置いて活動できているのは『うえだNavi』の活動を通して多くの皆様に出会えたおかげです。地域の方々との密接な関係を築き、期待と信頼を得られたことが大きかったと思っています。



接客中の池松さん

Q 池松さんは上田をどのような街にしたいですか？

私の思うまちづくりは「上田の街を上田市外から来て「上田っていいところですよね」と言ってくれる人達なんです。だからこそ、そういった人たちと出会い続けていないと自分の活動する街について新たな発見をすることができません。私は観光の目線で多くの人が興味を持つてくれる街にしたいということを軸に、イベントなど必要な計画をしています。

最近は大学生の皆さんとの交流が増えましたが、私は大学生の皆さん」ことを「4年間長期滞在する観光客」だと思っています。その観光客でもある大学生の皆さんのが4年後に上田から旅立つていった後も「上田に行つて良かつたね」という話をしてくれるようになります。今私の活動の一つです。

Q イベントを企画するようになったきっかけはなんですか？

まちづくりをテーマにしたイベントを企画するようになったのは上田駅前で開催した音楽フェスがきっかけでした。

平成の大合併の時期に上田市でも大きな動きがあり、「観光をリーディング産業に」というスローガンを発信していました。当時、軽井沢で仕事していた私は、面白そうだなと思つて上田に戻つてきました。

しかし、その時の私はまだ上田の街をどう盛り上げれば良いかが分からず状態でした。悩みながら色々と歩き回つていたとき、駅前で演奏している同世代のストリートミュージシャン達と出会いました。皆バラバラに個人で活動している人たちだったので、みんなと一緒に駅前にステージを組んでフェスをやってみないかと声をかけて企画が始まりました。

資金集めの話になつたとき、上田市の補助金を申請したり、当時、駅前にあつたイトーヨーカドーの店長に支援していただきフェスが大成功して、その後3年ぐらい続けて開催することになりました。

今までたくさんのイベントを企画・開催してきましたが、イベントとは街を盛り上げる一つの手段だと考えています。自分がイベントをしたいからではなく、上田の街を盛り上げるために必要なイベントがあるからやるべきだ、という考え方でイベントを企画しています。

Q イベントを成功させる秘訣はなんですか？

「誰のために、何のためにやるのか」という目的が明確かどうか、その一点だと思います。その一点が明確であれば頑張ることができ、途中でやめることが無くなります。また、イベントは常にトライアンドエラーなのでやつてみないとわかりません。実際たくさんエラーがありますが、やつている最中はエラーにへこんでいる暇はないのですぐに対処していくことが成功の秘訣だと考えています。



柳町屋で交流する大学生

Q 大学生と交流をする際に気を付けていることはありますか？

大学のゼミなどではなく、個人的に上田地域で活動してみたい大学生と話す時に気を付けていることがあります。自分のやりたいことと上田地域でできることがマッチしている大学生がいた場合、きっちりヒアリングをして、それが上田地域で、また大学4年間の中でも実現可能なのか、さらにどれくらいのことができるのかということを確認して、フォローするようにしています。私の役割は、そのようなマッチング機関としての機能ですね。



インタビューの様子

Q 学外で活動する大学生はどう行動すべきですか？

大学生が自分で企画して社会を巻き込みたい、大学のイベントではなく地域で自分のイベントとしてやってみたいという人たちがいた場合、まずこれからイベントを企画運営するうえで何が必要なのかというのを調査することが必要になります。

イベントをやる前提で勢いで実行できるのが若者・大学生の強みですが、実際に自分が目指す状態をはつきりと自覚していないと、周りを巻き込むだけ巻き込んで目標に届かずにつながってしまうということがあるのがイベントです。ある意味、勢いがあるのは若者の特権ですが、「何とかなる」だけで実行してしまうと、社会の人たちに迷惑をかけてしまうことになります。ですから、目標や課題を明確にするために事前調査が大切になります。そのため、イベントにボランティアとして参加し、どのように企画運営をしているのか、イベントの裏側を見ておく必要があると思います。

柳町の夏祭り

2022年8月20日の土曜日に柳町夏祭りが行われ、池松さんが過去の事業の中で関わってきた人や地元の人が300人程集まりました。このイベントではお酒だけではなく、上田名物の美味だれ焼きとりが販売されている他、着物の着付けも行われていたため、雰囲気だけでも楽しめる場になっていました。さらに子供たちを中心花火も行われていて、これもまた場でやりたいこともできない世の中になっていた中で大きな夏祭りさながらの雰囲気を楽しめるこのイベントは大成功でした。



夏祭りの様子

柳町の朝力フエ

旧北国街道で毎月日曜定期的に行われる朝力フエ。歩行者天国で行われるこのイベントは朝の8時半から10時半までの間に北国街道のいくつかの店から朝ご飯にぴったりなメニューが出品されています。そこではおかゆやパン、カレーなど様々な味を楽しむことができます。

このイベントは上田市の街中に住む市民を主な対象に開催しており、コロナの影響で地域の方が気づいていない柳町の魅力を伝えることを目的としています。そして定期開催によって認知を広めることで市外から来た人々にもさらに広まっていく効果も期待しているのです。

実際、朝力フエで柳町を歩行者天国にすることにより、普段、散歩で通り抜けるだけの人達が柳町で消費活動を行うようになるうれしい変化がありました。

学生から見た池松さん

社会の広さ、自分の可能性を魅せてくれる存在で、長野大学に来てよかったですと、以上に「上田」に来てよかったですと思わせてくれます。朝力フエやイベントでは、人生どこへ行つても人とのつながりが大きな力ぎを握ることを学びました。

長野大学Fさん



朝力フエで販売されている商品



2016年に誕生した信州上田の「当地ブランド林檎「真田REDアップル」を活用するため、りんごスイーツを開発・販売しています。信州上田でりんご農園を営む若手農家とコラボレーションし、りんごの可能性を追求しながら、通年を通して真田REDアップルのPRをするためのスイーツを開発しました。柳町通りのほぼ真ん中に位置する柳町屋は、観光で訪れたお客様のお休み処としてスペースを開放しております。築150年ほどの古民家であるため落ち着いた雰囲気の中一息つけることができます。



柳町屋の店舗外観



アップルたまごタルト
リンゴ果汁の入ったカスタードとスライスりんごを使った、冷やしても温めても美味しいタルトです。



アップル焼きドーナツ
油で揚げずにオーブンで焼き上げたヘルシーなドーナツ。刻まれたりんごの食感が楽しめます。



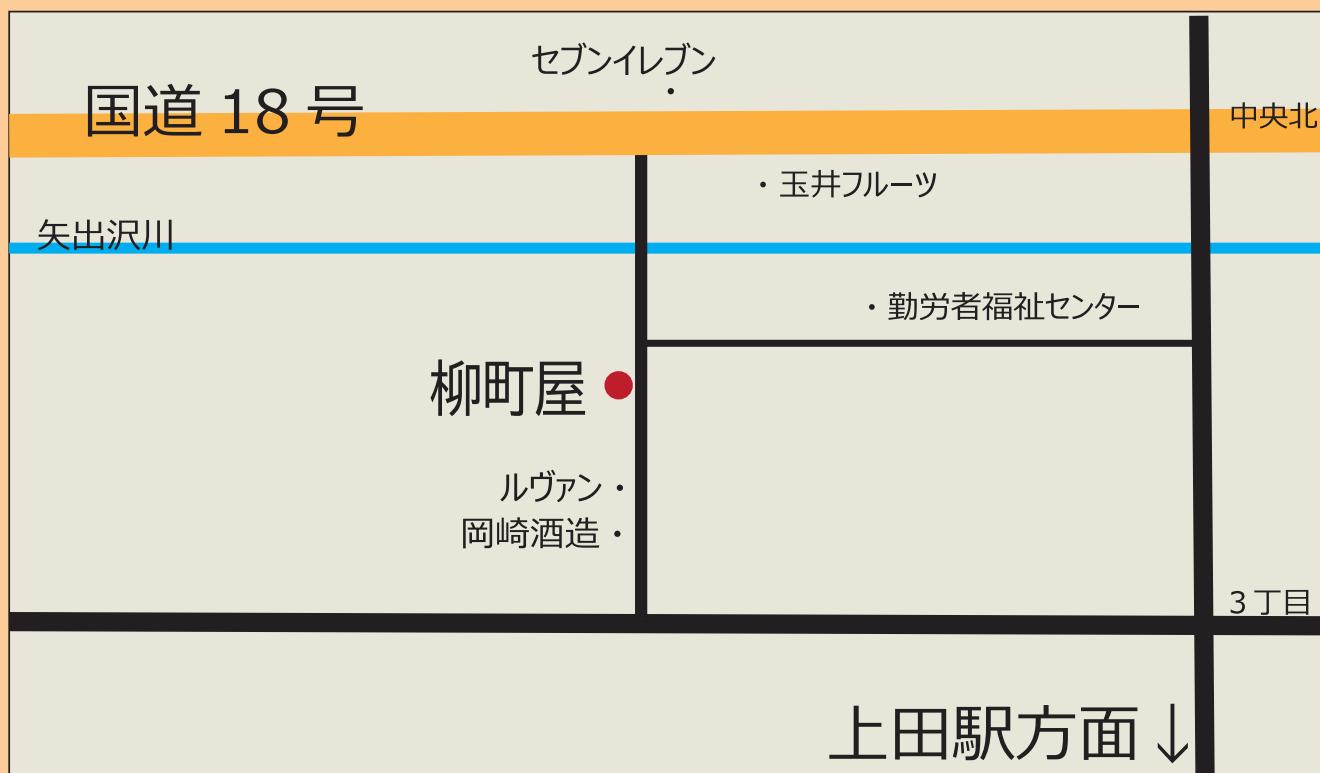
りんごの最中
白餡とりんご果汁を合わせた餡を最中で包んだ和スイーツ。お湯に溶かしておしりこして食べるのもおすすめ。



パンケーキみたいなりんごのどら焼き
隠し味に信州味噌を使った生地とりんご餡を組み合わせたどら焼き。レンジで温めるとパンケーキのように楽しめます。

インタビューを終えて

今回、池松勇樹さんにお話を伺いました。イベントが好きで上田地域が好きな池松勇樹さんはとても行動力のある方だとわかりました。その力強い行動力は積極的なコミュニケーションや、粘り強くトライアンドエラーを繰り返し企画を練り続けた賜物だとわかりました。最後になりますが、貴重なお話をしてくれた池松勇樹さんに心より感謝申し上げます。



住所 :〒386-0012
長野県上田市中央4丁目7-30
電話番号:0268-75-8728
営業時間:10:00~16:00(水曜定休日)
FAX :0268-75-8721



Instagram



Twitter



USED & VINTAGE
CLOTHING STORE

DADA

自分のやりたいことを、楽しむ。



Biography

0歳・長野県上田市に生まれる

18歳・上京

専門学校のクラブDJ科に入学したのち
退学

20歳・雑誌撮影のロケバスの運転手や補助と
いった仕事に取り組む

23歳・結婚

29歳・地元である上田市に戻りWEB制作会社
に入社

35歳・独立

フリーランスで、ホームページ制作や名
刺デザインなどの活動を開始

36歳・古着屋DADAを上田市でオープン

39歳(2023年1月現在)・
店舗を現在の場所へ移転し、営業中

DADAは上田市役所のほぼ目の前にある古着屋さん。店内はゆったりとしているながらもカジュアルな雰囲気。アメリカ古着、ヨーロッパ古着などたくさんのアイテムが随時並ぶが、ほとんどが一点もので自分だけのお気に入りを探すことが出来る。長野大学生をはじめとした学生や若者に人気が高い。

このお店を営むのは、上田市出身の後藤雅彦(ご
とう・まさひこ)さん。実は後藤さんは古着屋さんだけではなく、ホームページ制作、DTPデザインを行
う「Lula design」(ルラデザイン)としての顔も持つ。



2022年6月某日。

DADA内の一室をお借りし、店主の後藤さんにインタビューを行った。
上田に対する思い入れ、古着屋開業に至るまでの道のり、そしてこれからの目標。
話を聞くうちに、後藤さんの仕事や生き方に対する思いが見えてきた。

高円寺での生活
古着屋を営むきっかけに

東京の専門学校に進学

—DADAを立ち上げるまでの、後藤さんの歩みを聞かせてください。

高校を卒業したあと進学したのが東京の音響系の専門学校で、学科は新設のクラブDJ科でした。で、当時その学科に入ったのは当時有名なDJが講師で来るって聞いたからです。あとは深く考えていたわけではなく、とりあえず上京したかったっていうのがありましたね。DJだけで食べていける人は数人しかいなかつた時代で、それが仕事になるとは思ってなかつたし、「DJやつたらモテそうかな」というのを感じました。今でもDJやってる人はいますが、DJだけで食べる人はいないんじゃないかな。

専門学校的にはもつと生徒が集まる予定だったと思うんですけど、フタを開けたら15人くらいしかいませんでした。新設の学科だったのと講師も急遽変更になつたりで、思っていた授業内容と違つたのと、そもそもDJつて学校で習うことではないと気づき辞めました。でもまあ楽しかつたです。そこで出会つた人たちとは今も友達ですし。

東京でのアルバイトから デザインの世界へ

—「デザインに興味を持つようになったきっかけは何ですか？」

「デザインって正解のない仕事で、「こっちがいいかな」とか「いやこっちかな」とて考えるの昔から好きだったので。地元に帰ってきて、特に資格もないし、だからやりたいことをやろうと思いまして。WEB制作も興味本意で勉強してみたら結構楽しくて、向いてるのかなと思いました。昔から何か物を作る工程が好きなんです。

あと、グラフィックデザインとかWEBデザインとかだと将来、フリーランスで仕事ができるようになるかなとも考えしていました。

東京でロケバスの仕事をしていたことがあるんですけど、スタイルリストさんと関わる機会があって、フリーランスで個人で勝負している彼らに魅力を感じて。それがきっかけでフリーランスになつて勝負したいなつてのはずつとありました。

—古着屋を始めたきっかけは何ですか？

約5年前に最初の店舗になる物件をフリーランスの事務所として借りました。物件が古いんですけど広くて、事務所だけだと勿体ないなと思っていて、何かお店ができたら面白いなあとthoughtでした。

古着屋は面白い、楽しい場所って

イメージは東京の高円寺に10年くらい住んでいてあつたので、上田市に古着屋があつたらいいなとJITARENして戻つてからずつと思っていて、ちょうどいいし、自分でやつてみようかと。

ほんと最初は友達がお店に遊びに来てくれればいいやぐらいの感じで始めたんですけど、地元の若い子が最初からお店に来てくれたりして、「やっぱりみんな古着屋を欲してたんじやん」とか思いました。オープnした時に高校生だった子が今一緒にスタッフとして働いていたりとか、今思うと理想的な感じになつてます。

dada

生まれ育った上田の地で

——なぜ、DADAを上田で開いたのですか？

子ども育てるなら地元で育てたいなどはずつと思つていて。実際上田に戻つてみたら、自分が高校生の時には、もっと服屋さんとかがあつたイメージがあつて、事務所も無駄に広いし、古着屋さん楽しそうだしやってみよう！と。あと高円寺に住んでいたときに、よく行く古着屋さんは、10回行つて買うのは1回くらいでした。古着屋さんつていろんな服があつて見てるだけで楽しいので、近くに来たら入つてしまふみたいな感じでした。だから上田にも、「『飯食べに行くときについでにちょっと見ていこうかな』という感じの古着屋さんが街中にあつたらいいなとは戻つてから思つていました。

——「古着屋さんへ10回行つて買うのは1回くらいい」とお話をされていましたが、ご自身が営むDADAでもそのようなお店作りをイメージされているのですか？

そうですね。とりあえず気軽に見に来てもらいたいなとは思つていますが、流石にやる側になると、一回来たら必ず欲しい服が一つはある店を目指せればと、今は思います。でもとりあえず、気軽に見に来てもらって古着って面白いな、と気づいて貰えたらいいなと思います。人も服も年月を重ねて面白さが増すとthoughtします。傷も汚れもそれがまた魅力になる。古着は面白いですよ。ぜひ店頭まで！お気軽に！



DADAのお仕事

——古着はどうのように仕入れているのですか？

古着屋用に卸している業者さんがあるので、そこで買い付けています。業者さんによって特色があり、得意分野とかジャンルも様々なんです。



レディースが強いところとか、ヨーロッパものとか、アメリカものとか、欲しい物を探しにいろいろなところに行きますね。頻度は月に2～3回ぐらいかな。1日で多い時で200点くらい買います。倉庫の膨大な量の中から一点一点選ぶので、量見なきやいけないと時間も2～3時間と限られていますのでスピードも大事だつたりしますが、いい服を見つけた時は快感です。

——今後店舗を増やしたい、または規模を拡大したいとは考えていますか？

現店舗は昨年(2021年)の11月に移転して一年くらいなので、まだまだ手を加えたい所がたくさんあってまずはそこからやろうと思います。それと、古着屋を始めてもうすぐ5年なんですが、まだまだ上田の人には認知されていないので、もっとたくさん的人に知ってほしい、来てほしいという思いもあります。ですが、そこは焦つてもしょうがないので、じっくりマイペースで楽しみながら営業ができるべきだと思っています。

DADAのこれから

——そういう意味では、今のお店の形に満足しているんですね。

そうですね。でももつとお店をこうしたいなっていうのは常にあるので、やつしていく中でちょっとずつバージョンアップしていきたいですね。(終)



後藤さんからお話を伺う中で、私たち学生は多くの事を考え、多くの事を感じた。その中でも特に我々の印象に残っていることが2つある。

1つ目は「仕事でも、自分のやりたい事を楽しむ」という事。これまで私たちは、仕事とはやらなければいけないもの、苦痛や辛いことが伴うこと、というような印象を少なからず持っていた。しかし後藤さんは、仕事をするうえでもとにかく楽しむという事を大切にされている。「仕事は人生において半分くらいの時間を割いている。だから自分はなるべく楽しめるような環境を作ろうと心がけている」という後藤さんの言葉からも分かる。多くの人が言うような事の様に思えるかもしれないが、実は忘れがちなことかもしれない。そんな大切なことを後藤さんが考え直させてくれた。



2つ目は「深く考えすぎる前に、とりあえず取り組んでみる」という事。WEBの仕事を始めたとき、店舗を選び自分でリノベーションしたとき、古着屋を始めたときなど、後藤さんはとにかくやってみるという事を大切にされていた。「やってみて見えてくるものがある」という考えが後藤さんを動かしている。

考えすぎて進まないような状況よりも、何か行動して現状を変えてみる。そんな行動力も、私たちの大学生活や今後のキャリアの中で大きく意味を成すはずだ。

最後に、古着屋DADA後藤さんにはお忙しい中インタビュー・撮影にご協力いただき、ありがとうございました。

★古着屋DADA

長野県上田市中央2-3-5
open:13:00~19:00/ 定休日:火曜日
HP:<https://dada.lol/>
Instagram:@dada_ueda



◀ホームページ

Instagram▶



◀イギリスの老舗ブランドである「バブアー」のキルティングジャケット。同ブランドのオイルドジャケットやアメカジの定番「ラルフ・ローレン」のハンティングジャケットなど、武骨でありながら大人っぽいムードを醸し出してくれる古着が数多く入荷されている。

▶「今季はレディースのニットがけっこうイイの入ったんですよ」と語る後藤さん。なかでも多くラインナップされていたのが、フランスの名門ブランド「ラコステ」のカーディガン。鮮やかな赤色が目を惹くこのアイテムは、80年代~90年代初期に作られた「IZOD社」製のもの。



★lula design(ルラデザイン)

長野県上田市中央2-7-5
HP:<https://lula.work/>
Instagram:@lula.work



◀ホームページ

Instagram▶



記事ができるまで・・・

ここでは、『てくてくうえだ』がどのように作られているのか
一年の流れを紹介します。
鈴木ゼミでは、五つの班に分かれ、それぞれの班で特集記事
と、特集記事以外の箇所を分担し、ゼミ活動を行っています。



コンセプト決定

『てくてくうえだ』の目的や全体コンセプトを、ゼミ生全体で議論を重ねて明確にしていきます。

まちなかキャンパスうえだにて、班の話し合いをしている様子。
鈴木ゼミナールでは、年度初めに実際に街歩き(上田駅周辺)を行い、新たなお店の発見や、特集記事のインタビュー先決定に繋げています。

7月 6月 5月 4月

リーダー会議

毎週ゼミ活動終了後、それぞれの班のリーダーが集まり、班の進捗状況や意見の集約を行っています。

話し合いの内容によっては、一時間を超えることもあります。

取材先決定・準備

全体コンセプトのもとグループごとに取材先を決定し、学生自身で取材交渉を行います。インタビューを通じて明らかにしたいことを明確にし、取材先の事前調査や質問事項の検討を行っていきます。



「企画書」(「てくてくうえだ」の趣旨や目的、質問事項をまとめた用紙)を作成している様子。
インタビューがスムーズに進むよう、予め質問内容を考えます。



▲ 実際のリーダー会議の様子。
写真では、各班の進捗状況を共有している所です。

インタビュー実施

事前調査や筆問事項をもとに、取材や撮影を実施します。一回目のインタビューでわからなかつた点や新たに生まれた疑問を二回目以降で明らかにしていき、記事に深みを与えていきます。学外の方と関わることのできる貴重な機会であり、社会人として必要になるコミュニケーション能力の向上につながります。



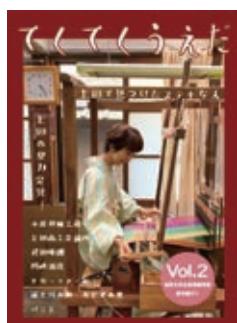
発行・配布

印刷された『てくてくうえだ』を取り先や市役所等にお渡しし、取材先へお礼を伝えると共に、配布をお願いします。

実際のインタビュー風景。
写真は、「上田信用金庫」の方にインタビューを行つている様子です。

次年度の活動へ

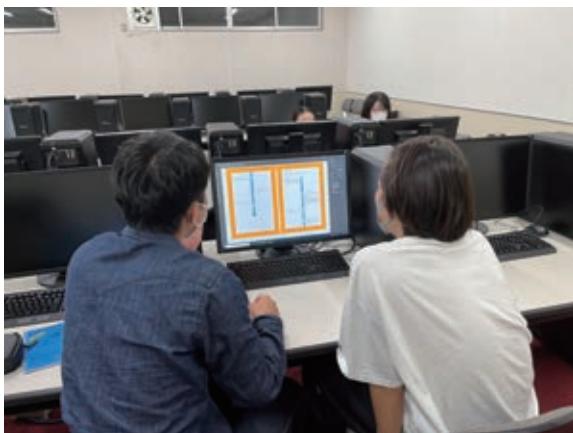
1月 12月 11月 10月 9月 8月



記事執筆・デザイン

大学生ならではの視点や感覚を大切にしながらも、取材相手の人柄や特徴を捉えた記事やデザインを制作します。読者の興味関心が得られるよう、各グループで討論を重ね、進めていきます。

アドビ イラストレーターを使用し、紙面作成を行つている様子。
写真では、「Jの「記事ができない」とのページを編集している所です。



過去の「てくてくうえだ」の表紙画像。右上、右下、左上の順に、「Vol.1」、「3」になっています。過去の「てくてくうえだ」は、右下のQRコードを読み取つていただきと、閲覧できます。過去号の「てくてくうえだ」もぜひご覧ください。
※QRコードは株式会社アノンワークスの登録商標です。

大学紹介

長野大学は二〇一七年に公立大学法人となりました。それに伴い、県内だけではなく県外から多くの学生が集まり、多種多様な学びの場へと展開していきました。本学には、「社会福祉学部」「環境ソーリズム学部」「企業情報学部」の三つの学部があり、個々の目標にあつたさまざまなプログラムが行われています。長野大学が最も重視している学びの精神は、地域とともに地域の中で実際に見て触れて感じるというものです。



学部紹介

企業情報学部では、課題発見・問題解決をチームで取り組みます。そして、仕事の「楽しさ」や「やりがい」を理解しながら、企業や組織から必要とされる問題解決能力を身につけます。学生たちは、卒業後に目指す職業を見据え、「経営」「情報」「デザイン」の三つの分野から希望の学びを選択します。そして、段階的な学びによって「社会で生きていく力」を獲得します。

ゼミ紹介

鈴木誠ゼミは、二年生 十三人、三年生 十三人、四年生 十一人の計三十七人です。

ゼミでは「地域マネジメントプロジェクト」と題し、上田市にある企業の経営者と労働者に着目したプロジェクト研究を展開しています。

その一環として、「上田で働く人を通して上田の魅力を探求する」をコンセプトに、学生が主役となつて上田市を紹介する情報誌『でくてくうえだ』を作成する「タウン誌作成プロジェクト」を行っています。

上記のようななぜミ活動を行う理由として、上田市にある企業の経営者やそこで働く労働者を通して、まず自分たちが上田市のことともっとよく知りたいということが挙げられます。その際、普段では顧客に届かない思いやモットーをインタビューで聞き出し、また教科書では知ることができる経営や労働の知見を得ていきます。そして、取材活動から得た知見や経験を学生一人ひとりが自らのキャリアデザインに活かすようにしています。

さらに、上田経済の活性化や地域の課題発見・問題解決を行うことによって、若者層をはじめ、あらゆる世代が「住みたい、住み続けたいと思う上田市」になるように促したいと考えています。

編集後記



今年度はゼミ長を仰せつかりました
がゼミ全体を統率することの大変さ
を感じました。しかし、試行錯誤
を痛感しました。しかし、試行錯誤
を重ねてタウン誌を完成させること
ができました。（多胡大輝）

三年生になつて昨年度よりもやるこ
とが多くなり責任も増して難しかつ
たですが、協力して無事完成させる
ことができたので良かったです。
（佐々木聖太）

今年度は昨年度までの経験を活かし
て作業することができました。ゼミ
としての活動は最後ですが、この経
験を今後に活かしていきたいです。
（高田渉）

取材で社会の広さや様々な価値観を
知ることができました。またメンバー
ーの手助けのおかげで記事を無事完
成できました。ありがとうございました。
（海老原稜大）

初めてのタウン誌作りでしたが様々
なことを学ばせて頂きました。この
経験を活かせるように頑張りたいで
す。ありがとうございました。
（高橋美桜）

ゼミ活動を通して様々なことを知
り、学ぶことができました。お忙し
い中、協力していただきありがとうございました。（岡崎里佳）

今回タウン誌を作成するにあたつ
て、難しいこと苦労することも沢山
ありました。が、取材先の方をはじ
め、先輩方に教えてもらいながら頑
張りました。楽しみながらいい経験
になりました。（チャヤン）



今回のタウン誌作成はどうやつて班を引っ張つて行くか、仕事を効率よく進めるにはどうするべきかなど考えることが多く、人間として成長できたと感じます。（鶴田和也）

初めてのタウン誌制作で様々な経験を積むことができました。改めて上田の魅力に気づくことができてよかったです。（小山桃果）

昨年度の経験を活かしながら、無事タウン誌を作成することが出来ました。この一冊を通して上田市の新たな魅力を届けられると思います。（土屋翔）

初めてのタウン誌の作成でわからないうこともたくさんありましたが、たくさん学ぶことが出来ました。楽しいゼミ活動ができてよかったです。（近藤千織）

タウン誌作りは難しいものです。同じ班の人と力を合わせて作るのはとても楽しいです。私は鈴木ゼミに所属し、タウン誌作りに携われたことを誇りに思います。（田口来渡）

ご協力してくださった皆さまありがとうございました。ぜひ読んで魅力を感じていただければと思います。鈴木ゼミで培った経験を活かしています。（石井佑季奈）

これまでの経験も活かしながら、同じ班のメンバーだけではなく他のメンバーとも協力して、より良いタウン誌を作成する事ができたと思っています。（出井寿珠）

今年度は昨年度の経験を活かして作業を進められました。タウン誌作成に協力してくださった皆様ありがとうございました。この経験を今後に活かしたいです。（大瀧駿介）

昨年度の経験を活かし、今年度の活動はスムーズに進めることができたと思います。このゼミでの活動をして得た経験をこれからに活かしていきたいと思います。（川地純矢）

今年度はリーダーを務めました。至らない部分は多くありました。メンバーやインタビュー先の方にご協力を頂いて無事に完成することができました。（内田遥）

初めてタウン誌を作りわからぬことだらけでしたが、先輩方に助けてもらい満足のいくものができたと思います。今回学んだことを来年度に活かしたいです。（今村俊太）

今年も無事にタウン誌の作成に関わることができて本当に嬉しいです。上田の皆さんとの優しさに触れたこの経験を今後の人生に生かしていくのです。（井出大貴）

大学最後のゼミ活動でしたが、ゼミのみんなでとても楽しく活動でき、満足のいく内容にできました。学生生活を振り返り、改めて鈴木ゼミで良かったです。（古田惇大）

昨年度の経験を活かしてさらに上田の魅力を広めることができるようなタウン誌を作ることができました。ぜひ多くの人に読んでほしいです。（黒柳壮左）



周りの皆さんのお借りで進行することができました。上田信用金庫様、インタビューにご協力いただきありがとうございました。ぜひご覧ください。（杉山敦優）

今年度も無事に完結を達成することができて、良かったです。来年度は大学生活最後の発刊になると思うので、よりよいものが作れるよう頑張ります。（村田充）

初めてのタウン誌作成でしたが、インターネットを通して、上田市の魅力を知ることができました。楽しく取り組めて良かったです。ありがとうございました。（岡田瑠夏）

今年度で最後のタウン誌作りでした。がインタビュー内容やデザインなどどこをとっても今まで一番良い出来だと思います。ありがとうございました。（島田愛菜）

初めてのタウン誌作成でしたが、やり組んで良かったです。ありがとうございました。（岡村秀真）

初めてのタウン誌作成だったので慣れない事ばかりでしたが、無事に完成させることができました。たくさんの方々に読んでもらいたいと思いました。（越川大夢）

他のメンバーたちのお陰で心地よく遊びのびとゼミ活動が出来ました。社会人の方々と関わることで学べる機会をお借りして感謝申し上げます。

特集記事が完成するかとても不安でしたが、メンバーの協力もあり無事に完成することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。（近藤涼花）

三年間とても楽しく充実したゼミ活動を送れました。また、たくさんのことを学び今後の人生に活かしたいと思いました。ありがとうございました。（渡邊響）

グループの先輩方をはじめ、ご協力いただいた多くの方のおかげでタウン誌を無事完成できました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。（宮坂薪輝）

他のメンバーたちのお陰で心地よく遊びのびとプロジェクトに取り組めました。また、取材先をはじめとするご協力者様の皆様、ありがとうございました。（白石宗依）

取材を通して上田の人たちの温かさを実感しました。タウン誌を読んでくれた方々に上田の魅力が伝わることを願っています。来年度更に良くします。（渡辺啓太）

岡村さん、白石君、宮坂君、越川君、近藤さん、河村さん、仲良くしてくれてありがとうございました。来年度もいたらよろしくお願ひいたします。（渡邊晴幸）

初めての先輩方とのゼミで助けてもらおうばかりでした。来年度は自分達が中心になると思うので、教えてもらつたことを活かせるようになりました。（飯沢涼平）

優秀で愉快なメンバーの方々のおかげで、最後のゼミ活動を楽しく過ごすことが出来ました。とても良いものが完成したと思います。ありがとうございました。（河村優里）



てくてくうえだ

「信州上田学」特別号



作成：長野大学地域づくり総合センター「信州上田学」2022年特別事業
タウン誌『てくてくうえだ「信州上田学」特別号』作成プロジェクト

監修：長野大学企業情報学部教授 鈴木誠

取材：長野大学企業情報学部鈴木誠ゼミ学生

協力：サントミューゼ、上田映劇、上田信用金庫、柳町屋[Co・LABO SHOP]、古着屋DADA

発行年月：2023年1月

・長野大学HP信州上田学サイト>2022年度の取り組み>上田市との協働事業
https://www.nagano.ac.jp/education_research/uedagaku/2022_torikumi/2022_kyoudou/



・みんなでつくる信州上田デジタルマップ(信州上田学の情報発信のツール)
https://d-commons.net/admin/content_edit.php?id=9761&site=uedagaku

